

西宮

甚左衛門五人略

右之者共於町奉行申渡有之候様仕度奉存候、右之段町奉行御勘定奉行江被仰渡被下候様仕度奉存候、以上

巳十二月

宇田川平七三人略

〔鶉衣前篇拾遺〕百魚譜

人は武士、柱は檜の木、魚は鯛とよみ置ける世の人の口にをけるものがさまぐなる物ずきはあれども、此魚をもて調味の最上とせむに答あるべからず、糸がけて臺に居たる男ぶりさへ、外に似るべくもなし、しかるをもちしにはいかにしてが、ことに賞翫の沙汰も聞えず、是に乗ける仙人もなし、されば夷三郎殿も、他の葉武者には目もかけず、たゞ是にこそ釣もたれ給へ、龍を鱗の司といふは、食味はなれたる理屈にして、さは是を料理せんと、學びたる人は、むかし愚なる名をもこそとゞめたる、

鐵甲魚

〔百品考下〕鐵甲魚 和名タヒムコノゲシバチ マツカサウラ

臺灣府志、鐵甲魚、鱗硬如甲、去其皮方可食、

海魚ナリ、長サ四五寸、鱗六角ノスヂアリ、鮫ノ如シ、堅シテ石ノ如シ、他國ニテハ食モズ、惟長崎ニテ皮ヲサリ食フ、マツカサウラト云、

〔烹雜の記前集上〕多湊ぶり

佐渡に三十種の異魚ありといふ、○中鯛の聲源八○圖 鯛に似て極めてちびさく、鱗は甚するどし、

鱈

〔下學集上氣形〕鱈タカ

〔運歩色葉集魚系〕鱈タカ 多樂俗書